

事業名	スポーツ交流推進事業費		
細事業名	韓国忠清北道スポーツ交流事業費	財務コード	354902
担当部課室	教育委員会	スポーツ健康 課	スポーツ企画 担当 (内線) 8407

事業の概要

実施期間	始期 H4 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助(交流事業を実施する競技団体)		
事業の目的	だれ(何)を対象に 韓国忠清北道スポーツ交流団の受け入れを行う競技団体	その対象をどのような状態にして 財政的負担が軽減され交流事業の円滑な実施が可能となっている	結果、何に結びつけるのか 県、道 国際親善の強化 選手 国際交流試合の経験による競技力の向上
	平成24年度 山梨県へ招へい 平成25年度 韓国忠清北道へ派遣 平成26年度 休み [平成24年度の実績] ・実施競技 アーチェリー ・招へい人数 20人(役員、監督、コーチ含む) ・実施期間 平成24年10月30日～11月3日 ・補助金額 247,000円 補助対象経費 競技会場使用料、競技に必要な消耗品、韓国選手への記念品、選手等の昼食代 等 山梨県代表チーム 20人(役員4人、監督・コーチ各1人、選手(高校生)14人)		
根拠法令等	国際スポーツ交流事業交流試合運営費補助金交付要綱		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	25年度	26年度		27年度	28年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 受入を行う県内の競技団体数	0	0	0	1	0	活動指標 目標設定の考え方 受入を行う県内の競技団体の数 平成27年度は山梨県ソフトボール協会の予定 データの出典等
活動指標達成率(実績値/目標値)			%			
成果指標 受入人数	0	0	0	22	0	成果指標 目標設定の考え方 受け入れる韓国交流団の人数 データの出典等
成果指標達成率(実績値/目標値)			%			
決算額又は予算額(千円) うち一財額	1,173		0	3,109	2,590	成果指標によらない成果 平成24年度実施のアーチェリーでの交流事業に参加した選手の中からインターハイ連覇、国体優勝、ワールドカップ優勝などの成績を収めた選手があり、競技力の向上につながっている。
所要時間(直接分)	0 時間		0 時間	1 時間	0 時間	
所要時間(間接分)	0 時間		0 時間	39 時間	0 時間	
所要時間計	0 時間		0 時間	40 時間	0 時間	
人件費コスト単位:千円(@2,048円×所要時間)	0		0	82	0	

これまでの事業の見直し・改善状況

平成25年度に交流事業の実施サイクルを見直した。 見直し前 招へい 派遣 招へい 派遣 見直し後 招へい 派遣 休み 招へい 派遣 休み	(2年サイクル)	(3年サイクル)
--	----------	----------

活動量と成果の判断(平成26年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定 H26年度 活動指標 の達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること 平成26年度は交流事業を実施しない年であるが、実施競技や実施時期について韓国忠清北道及び関係団体との調整を行い次年度以降の交流事業に向けた準備を行った。
-	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H26年度 成果指標 の達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること 平成26年度は交流事業を実施しない年であることから、次年度以降の実施について競技種目などの調整を行った。
-	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成28年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の 判断項目
有	この補助制度により競技団体は負担なく韓国スポーツ交流団の受入が可能となっている。競技力向上のための施策としても参加選手にとっては、国際試合の経験を積む場となっていることから、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機としたスポーツの振興を推進する中で重要な事業の一つとなっている。 また、スポーツツーリズムを推進する観点からも韓国の高校生に本県の魅力を知ってもらう機会となっており、今後も継続する必要がある。 なお、実施方法については現行の3年サイクルではなく、上記の課題に対応するためにも2年サイクルで実施できるよう韓国側と協議を進めたい。	b

・「以外の判断項目」の欄
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プログラムの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の 判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成28年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
現行どおり	3年サイクルに変更して間もないため、3年サイクルと2年サイクルのそれぞれの効果を比較できるだけのデータが出そろうていない。このため、競技団体への負担や競技力向上への効果などについて比較検討を行うため引き続き3年サイクルで実施することとする。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること